

太陽



ヘルコルブス

地球



ヘルコルブス

/ 赤い惑星

V.M. ラボル

V.M.ラボル

ヘルコルブス
/赤い惑星

ヘルコルブス / 赤い惑星
Joaquín Enrique Amórtegui Valbuena
(V.M. Rabolú)

コロンビア版の元のタイトル
Hercólubus o Planeta Rojo

発行者
A. Prats Editor
Apartado de correos 449
09080 - Burgos (España)

この本のデザインや表現は全て出版社の権限に基づきます。

© 発行者は本書の著作権を所有しています。著者の許可無しにいか
なる媒体を通しての作品の一部や全体を複写複製することは法で禁
じられています。

無料版

目次

はじめに.....	1
ヘルコルブス / 赤い惑星	2
原爆実験と海洋	9
宇宙人について	15
金星の生活について	16
火星の生活について	26
惑星間を移動する宇宙船	29
死について	33
幽体離脱.....	38
最後に	44
読者の皆さんへ	46

はじめに

私はこの本を、命を捨てる覚悟で執筆しました。地球に大変動が近づいていることを皆さんに知らせる必要にかられ、起き上がることも、座ることもできず病床に臥していた自分自身を奮起させ努力をした次第です。

このメッセージを皆さんへ最後の手段として捧げます。なぜなら、もう他に何もできることはないからです。

(V.M. ラボル)

ヘルコルブス / 赤い惑星

現在人類は、偽りにも科学者などと呼ばれている人たちが発表した、現実性に乏しく嘘に凝り固まった予測に我を忘れて騒いでいます。ここでは私たちの住む地球に向かって接近してくる惑星、「ヘルコルブス / 赤い惑星」についてお話をしましょう。

科学者たちは、この惑星をまるで子供のおもちゃであるかのように直径が何メートルで重さが何トンなどと考えているようですが、実際はそうではありません。この「ヘルコルブス / 赤い惑星」は、木星の5～6倍の大きさを持つ巨大な惑星であり、この惑星の進行速度、進路は、もはや変えることができないのです。

地球に住む私たち人類は、この惑星について軽く考えていますが、実際にはこの惑星の接近は地球終焉の始まりであり、その時は既に目前にまで迫っているのです。太陽系の他の惑星ではそのこ

とは周知の事実であり、これらの惑星の住人たちはこの地球の大変動を回避しようと私たちを手助けする努力をしています。しかしながら誰もこれを防ぐことはできません。なぜならそれは多くの罪悪を行った私たち人類に対する神からの罰といえるからです。

私が皆さんに知っていただきたいことは、このヘルコルプスが私たちの地球と同じような惑星であるということです。このヘルコルプスの住民は地球に住む私たち人類と同じように墮落した人種です。各惑星には、それぞれ異なった住民がいるのです。科学者の皆さん、この惑星を攻撃して崩壊させようなどと考えないでください。なぜならあちらの住民も武器を持っており、その武器で私たちの攻撃に応じて一瞬にして私たちを消滅できてしまうからです。私たちが彼らを攻撃しようものなら彼らは対抗し、それが地球の終焉を一層速めることになるでしょう。

宇宙の法則では、全てが始めから終わりを繰り返しています。今回の場合ほど強烈ではありませんでしたが、昔アトランティス大陸でも同じよう

なことが起こりました。しかし、そのような出来事が繰り返し起こると、ヘルコルブスのような他の惑星がそばを通過することにすら地球は耐えられず、粉々に吹き飛ばされてしまう可能性があります。このことを科学者たちは知りません。なぜなら科学者たちは巨大な物体を破壊できるような武器を準備しているので、自分たちは強力だと信じているからです。しかしそれは大きな間違いです。

近い将来に起こる事は、あの有名な*バベルの塔の崩壊です。バベルの塔の建造は既に終わりましたが、今そのつけが反動として全人類へまわってくるのです。

科学者たちは自尊心や虚栄心、そして権力への欲望のために、自分たちが現在唱えている理論や今まで発表してきた理論でこの事実を否定しています。さらには馬鹿にまでして大笑いするに違いありません。しかしそれは科学者たちが行なって

*バベルの塔

キリスト教の聖書において、世界にさまざまな言語が普及したことや、宇宙空間へ到達したいという人間の傲慢さを表している。

きた実験が引き起こす結果を判断する力に欠けるからです。全てを打ちのめし、審判を下す神が実在することを信じる事無く、地球を我が物にしようとして化学兵器の開発に励み、地球にダメージを与えてきました。このような獣たちに対し、神について語ることはできません。なぜなら獣たちは自分たちの行ないそのもので神を否定し、また自分たち自身を神だと信じていますが、実はそうではありません。

現在偽りにも列強国と呼ばれているこれらの国々は、経済的にも道徳的にも廃墟と化すでしょう。なぜなら貨幣は近いうちに消滅し、飢餓と貧窮がこれらの国々を滅ぼしてしまうからです。そして彼らはその衝撃に耐えられず、恐怖におののくでしょう。そこでやっと権力者たちは邪悪を罰する神の審判が存在することに身をもって気付くのです。

現在この地球では、人々が金の亡者となっていますが、これとまさしく同じことがアトランティス大陸でも起こっていました。その当時アトランティス大陸では、神は金銭そのものであり、宗教上

でも*金の子牛として描かれていたのです。同様に現代でも貨幣がまるで神のような存在になっていますが、この考えはまったく間違っています。

物を売る人も買う人もいなければ、いくらたくさんお金があっても何もできません。ですから自分たちの権力に浮かれている富裕者達は、最も不幸な人間になるでしょう。彼らはひざまずき、空腹な犬のように泣きながら食べ物を乞うようになるでしょう。

ヘルコルブスが地球により接近し、ヘルコルブスと太陽が並ぶ時、死を伴うさまざまな伝染病が地球全体に蔓延し始めるでしょう。そして医者たちや科学者たちは、その伝染病の種類も治療方法もわからず途方に暮れるでしょう。こうして、地球上から生命体が消滅し始め、そこで人類は我慢できない飢餓や耐え難い暑さのため、同胞の死体を食べざるを得ないでしょう。

* 聖書における、金銭を偶像化した比喻
キリスト教の聖書において、贅沢、お金など、物質世界における不自由のない生活に魅了される様を表している

また地震や津波などが多数発生し、災害による暗黒の時代がやって来るでしょう。人類は食べることも寝ることもできず、精神的なバランスを失っていきます。さまざまな危険を目の前に完全に気が狂い、断崖から身を投げる人が続出するでしょう。

そしてついに人類は滅亡するでしょう。地球上に生命体は何も残らず、大陸全体が海洋に沈んでしまいます。なぜなら人類の墮落はもうその限界まで到達してしまったからです。他の惑星にこの墮落とともに移ろうとしても、それは許されることではありません。

まだ崩壊が始まってもないというのに、科学者たちをはじめ、世界全体がパニックに陥っています。しかしながら地球の人類は神に対する畏敬の念を持っていません。なぜなら人類は自身が生命の支配者、所有者、権力者であると信じて疑わないからです。そして今、私たちの所業に対して聖なる審判があることに気づくのです。

この本で私が断言している予言は、近い将来に起こります。なぜなら私は地球の最後をこの目で

確認したからです。決して皆さんを怖がらせたいのではなく、皆さんに警告しているのです。それはこの哀れな人類のことを思うと、非常に耐え難いからです。ここで私が述べていることはもうすぐそこまで来ているので、空想ごとにふけている時間はありません。

原爆実験と海洋

現在、私たちは出口の無い袋小路にいます。

ヘルコルブスについては、必要以上に恐怖や不安を与えないよう表面的な話をしてきましたが、今度は誰も抑制できない、破壊的で且つ致命的な、もうひとつの危険について見ていきましょう。その危険とは海洋で行われている原爆実験のことです。

海底に沿って大きな亀裂が多数あります。その亀裂はとても深く、科学者たちや我を権力者と信じている列強国が行なっている原爆実験によって、既に地下のマグマと接触しています。彼らは地球と人類に対して長年犯し続けている残虐な行為の結果を考えていないのです。

地下のマグマが海水と接触しはじめ、アメリカ人たちがエル・ニーニョ現象と呼んでいるサイクロンが発生しています。しかしそれはエル・ニーニョ現象ではなく、次第に海洋に広がっている地

下のマグマと海水の接触なのです。そして海底の亀裂が広がるにつれ、津波や地震などの恐ろしい現象を発生させるため、海沿いの町は跡形もなく消えてしまうでしょう。また相次いで行われている原爆実験によって地軸の位置は元の場所には無く、私達の住む大陸全体が海中へ水没するのは免れないでしょう。

地軸はすでに元の場所にはありません。そして地震や津波によって地軸は完全に外れ、大陸は水没するのです。親愛なる読者の皆さん、突然大陸が水没するわけではありません。これは私たち人類が通らなくてはいけない、長期的にじわじわと降り掛かる非常に苦しい道程なのです。地球最後の時がやってくるまで少しずつ水没していくのです。

科学者たちは、自分たちが万物に対し行ってきた愚行の結果を考えていません。なぜなら、彼ら自身が自ら考え出したことの犠牲者となるからです。既に海底には原子力を栄養として成長した怪物や猛獣が生息しています。これらの猛獣たちは、海水の高温化現象のために逃げ場を求めて海

底から抜け出し、海沿いの町にたどり着き、家屋やビル、船舶や人々など全てを襲い尽くすでしょう。なぜなら原子力から生まれた猛獣たちは、原子力そのものだからです。したがってどんな武器でもこの猛獣たちにはまったく歯が立たず、逆に彼らをますます憤慨させるだけなのです。ここで私が述べてきたことは、必ずや近い将来に起こるでしょう。

そしてこれらはこのままでは治まりません。マグマと接触して沸騰した海水は想像を絶するような蒸気を噴き出し、それが原因で飛行機は飛ぶこともできず、船も航海ができなくなるでしょう。そしてこの蒸気は太陽までも曇らせ、完全なる暗黒の世界を作り出し、その結果地球に住む生命体は全滅するでしょう。愛する読者の皆さんに忠告しておきます。もうどこにも逃げ場はありません。ですから決して今いるその場から動かないでください。

科学者たちは、海洋原爆実験が引き起こした全ての結果を無視しています。どんなに科学的分野に長けた人間といっても、彼らは無知な猛獣と同

じであり、彼ら自身や私たち人類を滅亡させる物を作り出すことをまったく気にも止めてはいないのです。

原子力は、海全体とそこに生息する動物を汚染してしまいました。そしてその魚や海産物を食用としている私たち人類の身体組織までも汚染されつつあるのは当然のことです。ですから私は皆さんに魚貝類を食べないことをお勧めします。

海は生きているため、様々な物を吸収したり放出したりしています。つまり放出するときには、汚染された物質が私たちの吸っている空気や植物を汚染しているのです。この全面的な汚染により、人間の身体組織に異変が起き、奇形児が生まれ、世界中を騒がすようになるでしょう。

高次元で私たちの地球を見ると、すでに文明は消滅しています。唯一地球で見えているものは、水と土を器で混ぜて煮たような、黄色の泥土のようなものだけです。植物や動物、そして人類、全ての生命体は確認されないのです。つまりそれは全滅しているということです。あとは3次元世界で同様のことが現実化し、文明が消滅し始めること

を待つだけです。なぜなら高次元で起こることは次元へと移っていくからです。

ここで科学者たちや知識人たちは私が述べていることに対し、大声をあげて笑うでしょう。しかしそのような人たちに限って、そのときが来ると一番臆病者になるのです。何をすればいいのか、どこへ逃げたらいいのかもわからず、ただ泣き叫ぶのです。

それでは、人類の未来はどうなるのでしょうか。それは文明の終わりしかありません。偽りにも科学者などと呼ばれている人たちは、確かに科学者なのかも知れませんが、彼らは破壊者であって建設的な人種ではありません。なぜなら科学は、生命ある物全てを滅ぼすために使われているからです。

大声で口バのように叫んでいる科学者の皆さんに質問します。「科学者の皆さんは人類や地球が破壊される危険を回避するために、どんな解決方法が見つけられますか」。その解決方法はありません。私たちは地球の天変地異を待つしかありません。それとも、何か他に地球や人類を救うすば

らしい方法をご存知なら、是非それを私たちに教えていただけませんか。

宇宙人について

アメリカの映画や雑誌を見たことがあります
が、それらは全くの虚構です。馬鹿げた理論や安
っぽい想像を人々に信じ込ませていますが、私の
目は騙されません。

彼らは地球へ急速に接近しているヘルコルブス
の重さや大きさについて、過小評価して私たちに
発表しています。同様に、宇宙人についてもまる
でゴリラや動物であるかのように事実を偽って私
たちを信じこませようとしています。しかしそれ
は百パーセント全くのでたらめです。なぜなら私
たちの太陽系や銀河系の他の惑星の住人たちは超
人であり賢者だからです。

私は宇宙人たちとコンタクトをとったことが何
度もあります。自分の幽体を意識的に移動させ、
実際に金星や火星に行ったことがあるので、その
すばらしい住人たちが実在することを証言できま

す。彼らの持つ知識や文化、また、スピリチュアルな生活については言葉では言い表せません。

金星の生活について

金星人は完璧な身体を持っています。額は幅広く、金髪で青い眼を持ち、鼻はまっすぐで、目を見張るほどのすばらしい知能を持っています。身長は1メートル30センチから1メートル40センチで、これより高い人も低い人もいません。そして肥満体の人でも不恰好な姿をした人もいません。全員が天使のような姿をしており、男女ともに完璧です。それは惑星自体もその住人も高次元へとアセンションし続けているからなのです。金星には地球に見られるようなアンバランスな体格の人はいません。

ここの住人たちは幅広いベルトをしています。そのベルトのまわりには赤、青、黄色のボタンがたくさん付いていて、それが灯台のように点いたり消えたりしています。彼らは危険を感じたとき、私たちのベルトのバックルに相当する中心部のボタンを押します。するとその瞬間武器や周りにあるもの全てを粉々にしてしまう炎の輪ができます。

それ以外にも、タバコの箱の大きさの手動式ポケット用武器があります。その武器についているボタンを押せば、どんなに巨大な山であっても一瞬にして吹き飛ばし、崩壊してしまうのです。もし私たち人類の誰かがこの武器を1つでも手にしたら、それを使って一体何をするのでしょうか。

誰かが金星人に何か質問するとします。すると金星人たちは、それがどんな言語での問いであっても相手の心を読み、相手が口を開くことなく答えを返します。というのも金星人は全ての言語を完璧に理解できるからです。彼らは生まれながらにして言語に対する特別な才能があるのです。

金星人以外の誰かが金星人と話しているとき、他の人たちは誰も他人のことには全く気も止めずに自分の仕事を続けます。金星人は私たちと違って、自分たちと違う容姿を持つ人をじろじろ見て侮辱することはありません。私自身、金星に行ったときに金星人と自分の外見を比べて、自分自身がゴリラのように思えて恥ずかしく感じましたが、私に注意の眼を向ける人は一人もいませんでした。誰もが他人のことなど気にせずに過ごしてい

るのです。これは今まで見たことのないすばらしい文明です。

それではここで、金星の土地や自然、生活様式がどのようなものなのか、そして金星人はどのように働いているのかについてお話ししましょう。

金星の土地は地球のように高密度ではなく、軽くて柔らかい地盤です。その石は私たちが想像する地球の石とは異なります。大きい石や小さい石などいろいろありますが、地球の石とは重さが違うのです。金星の石は密度が高くないため、地球では何十キログラムもするような石でも金星では持ち上げることができるのです。その石はとても軽くて柔らかい素材でできており、ほんの何グラムの重さにすぎないからです。

木も大きくはありません。植物にはとげがなく、つる植物も存在しないので、山道を歩いていて足をとられる心配もありません。切り倒す対象がどこにもないので、伐採用の鉋や短刀を持ち歩く必要は無く、どこにも危険なところはありません。

果物を育てるために、その木は肥沃土の入った植木鉢に植えられ、家の屋上にまで置かれています。金星では果実をむやみやたらに採る人はいません。熟すまで待ち、収穫は手作業ではなく機械で行ないます。果実はホースの中を通り、特別な洗浄が行われる回転中の清水タンクの中へ進みます。そしてきれいに洗浄された果実は、別のホースを通して数々の機械へ運ばれ粉末にされます。次に別のタンクに移され、化学物質ではない天然ビタミンが加えられ、最後に真空パック化されます。これが金星人の食料の一つです。

さて、海といえば皆さんは私たちが知っている海を想像しがちですが、金星の海は異なります。完璧な青色で、非常に穏やかで波が立つことはなく、まるで静かな湖のようであり、人工的な機器を使わなくても海底まで見ることができます。

魚たちは非常におとなしく、人を怖がったりしません。海中には魚がビタミンを大量に摂取できる一定の場所があります。そして金星人は魚を食べたいとき、どれが一番大きい魚か、またはどの魚を食料にしたいかをよく見て、そのうえで他の

魚を傷つけたり驚かしたりしないよう注意しながら網を海中に入れ、魚を捕り、そして内臓を取り除きます。

その後、滑車を利用して回転中の清水タンクに入れ、独自の洗浄を行ないます。手はまったく使用しません。それからいくつかまた別の機械を通り、そこで粉末になった魚にさらに天然のビタミンを加えます。野菜の場合も同じ処理が行なわれます。ここでは誰一人として魚以外の肉を一切食べません。

金星にはレストランのような場所が存在します。つまり客が来てテーブルで食事をする料理店ですが、金星人は誰もが相手の考えていることを読めるので、何を食べたいのか口に出してオーダーしなくても料理がちゃんと運ばれて来ます。また、私たちが地球で行なっているように感謝の言葉を言うこともありません。金星では食事が終わったら席を立ち、勘定を払いお礼を言う必要はないのです。皆が行う頭を動かす動作が感謝の意を表すからです。

洋服の店もまったく同様です。服を着替えたいときに店へ行き、そこで一度に服も靴も着替えることができます。また壁にあるボタンを押すと着替えやシャワー用の暗い部屋が用意され、別のボタンを押すと水が出てきます。脱いだ服はすぐに特別な洗濯を行なってきれいにされます。金星では洋服においても靴においても違いがありません。全員が同じ洋服や靴を着用しており、それが金星人の制服なのです。

金星には個々の家が存在しません。金星人の夫婦は眠くなったり、休憩したいと感じたときに、家やビルについているボタンを押します。すると瞬く間にそこに暗い部屋が用意されるのです。また別のボタンを押すとベッドが出てきます。「これは私のベッドです」などと主張する必要はなく、誰かの許可がなくても必要な人が自由に利用できるのです。

金星の道路は地球の道路とは違います。地球にある動く歩道のようなものが大通りに走っています。ここでは交通事故はおこりません。なぜなら全てが秩序正しく動いており、乗り物として利用さ

れている貨車のようなものは、とても美しい装飾が施されています。金星人はその貨車に乗って外出し、目的地に到着すると、乗客と一緒にプラットホームが道から降ります。降りるのは人ではなくプラットホーム自体です。旅行を続けるには、他の乗客を乗せて待っている別の貨車に乗ります。これら金星の道路や全ての機械類は太陽エネルギーを利用して動いています。金星では重油やガソリンなどの空気を汚染するものは一切使用されていないので、公害問題はありません。

家やビルを建設するのに、私たち地球人のように地上何メートルという高いところに登って仕事をすることはありません。全員が地上で作業を行ないます。まず最初に建物の天井を作ります。次にローラーを利用してできあがった天井を吊り上げ、次の階を作ります。それが終わったら再びローラーを利用して好きなだけ次々と階数を増やしていきます。危険なことや事故は一切ありません。

金星人の男性や女性は1日2時間、それぞれ自分の専門的な仕事を行ないます。金星には貨幣はなく、雇用主もいません。誰もが全てのことに権

利を持ち、皆のために働くのです。全てにおいて平等なので、上下関係は存在しません。ただ、飢餓や貧困が起こらないように、1日2時間だけは仕事をするよう法律で定められています。

金星人は備えている能力を使って自然に対して働きかけることもできます。必要に応じて雨を降らせたり、晴天にしたり、曇らせたりすることができます。ですから私たち地球人のように自然に左右されることはありません。

金星では、他の惑星に行くのに許可は必要ありません。ここではどの金星人も駅に置いてある宇宙船に乗り、その宇宙船でどの惑星、どの銀河系へも、誰にも相談せずに行くことができます。完全なる自由なのです。ただ、あとでまた他の人が使えるように、戻ってきたら前にあった場所に返します。ここでは国境も国境を越えるための手続きもありません。

ここで皆さんに知っていただきたいのは、金星には私たちの住む地球のように家族制度というものはなく、男女のカップルのみが存在するということです。そこには結婚式を行なう教会も神父も

いません。互いに不足している部分を補足しあえる双子の魂と一緒にあります。どんな宗派の宗教も存在しないのです。宗教とは、生命や他の人間たちとの互いの尊重なのです。

金星では、地球で見られるような性交による射精はしません。実を言うと地球に住む人類は獣より劣っています。金星人はグノーシスの教えである科学的純潔、またはセックスエネルギーの変換を使用しているので、生命を自由に延長することができます。なぜならセックスエネルギーは人間の生命の基盤だからです。これに対して私たち地球人は、射精により短期間にして老化してしまうのです。

金星人と握手をすると、まるでエネルギーを得たかのようにピリッと電気に触れたように感じますが、それは彼らがエネルギーに満ちているからです。彼らは決して地球に住む人類のように性交による射精は行いません。彼らのエネルギーは科学的純潔によって与えられているのです。

金星人は子供をもうけるために、射精なしで性的に結合します。この世に生まれて霊的成長を望

む一つの魂に新しい肉体を与えるには、ただ一つの精子が放出されるだけで充分だからです。神父までが同性愛者の結婚を認めるといった性的退廃は金星にはありません。金星には同性愛は存在せず、本物の男性と女性しかいません。そういった性的倒錯があるのは私たちの住む地球だけです。なぜなら他の惑星の住人たちは、性交によって射精しなくても子孫を繁栄できると知っているからです。

子供が生まれると、細心の注意が払われながら病院に移され、学生の間は特別の栄養が与えられます。そしてふさわしい年齢に達すると、実習学校へ通います。金星の実習学校は非常に大きく、そこで必要なこと全てを実践で学びます。教師たちはそれぞれの生徒が持っている適性を見極めるため、機械の操作を教え、生徒が持っている才能を伸ばすように指導します。

生徒に何かを作るアイデアがあれば、その作りたい作品ができるまで、教師たちは生徒のアイデアを補うように手助けします。全ての金星人はこのように育てられます。ですから金星には無知の

人間はいません。全ての金星人は物質的、靈的に向上するための準備ができています。

火星の生活について

火星の生活も金星の生活と全く同じで、全てにおいて自由です。火星人はパスポートやビザといった類の書類上の手続きや、誰かの許可も必要とせず、惑星中どこでも自由に移動することができます。どこへ行こうと、どこかに到着すればベッド、食事、さらに着替えの洋服も用意されており、火星中どこにいても、いたるところで必要なものが手に入ります。国境もなく、完全に自由です。太陽系の他の惑星でもそれは同じです。

火星人は金星人より身体ががっちりしていて強靱です。なぜなら、彼らの魂は戦士のグループに属しているからです。

火星では、全員が兵隊の制服を身につけています。その盾や兜や鎧など、戦闘服の全てはブロンズに似た物質でできています。火星人は真の戦士として際立っていましたが、彼らは私たち地球で言う戦士とは違い、火星人同士はもちろん他の惑星相手に戦争を行ないません。彼らにとって戦争

とは、悪に対してであり、悪と戦うことです。決してそれ以外との闘いではありません。

ここで私が皆さんに知っていただきたいのは、これらの惑星では私たち地球のように肉体労働によって汗をかいたりしないということです。仕事は全て太陽エネルギーを利用した機械で行なうので疲れることもありません。彼らの仕事は作業員を交替しながらこういった機械を操縦することです。全てが彼らの知識で動きます。

宇宙人は高い能力を持っているので、生まれるのも、成長するのも、死ぬのも自由意志で決めることができます。彼らは長年使ってきた肉体に疲れてその肉体を交換したい時に、自分の意志で肉体を死なせることができます。そして壁にある遺体と同じサイズのくぼみに遺体を入れてドアを閉めボタンを押すと、数分で遺体は灰になってしまいます。もし完全に亡くなっていなければボタンは作動しないので、その時はくぼみから身体を取り出し、息を引き取るまで待ちます。火星には墓地がないので、その灰は木に撒いたり土に埋めたりします。誰かが亡くなったからといって誰も泣

いたりしません。彼らにとって死とは、服を着替えるのと同じ程度のことなのです。

これらの世界では、植物も、動物も、人類も、惑星自体も、何も退化するものはなく、全てが進化しています。逆に地球では惑星自体を含むすべてが衰退しています。今まで行なってきたことがそれを表しているのです。ここには健康に害を与える蠅や蚊などのような害虫や、爬虫類の脅威もありません。

火星や他の惑星の法律とは、同じ惑星人同士、そして他の惑星の人類や生命、全てと互いに尊重することです。地球に住む私たち人類のように武器や脅しで世界を我が物にしようとはせず、宇宙人たちは各個人の自由意志を尊重します。ですからアメリカ人たちが制作している映画や雑誌は間違っているといえるでしょう。

私が火星について少しお話しているのは、他の惑星の生活についてまったくの無知であるアメリカ人の皆さんに火星の実態を理解していただきたいからです。なぜなら彼らは火星や他の惑星に生命体があることを否定しているからです。

私は宇宙について理解したいとき、望遠鏡や人工的な器具などは使いません。私は完全な意志と意識で、潜在能力を使うことができますからです。グノーシスの教えがその方法を私に授けてくれました。その教えで私はいろいろと実践を積み、その結果、真の知識を得ることができました。知っている者とは知識がある者で、知識を持たない者とは知らないことについて話す者のことです。実践においてグノーシスの教えと比較できるものは何もなく、その教えは立ちはだかるどんな障害やどんな壁も超えられる無限のものなのです。

惑星間を移動する宇宙船

さて今度は宇宙船について少しお話ししましょう。科学者たちは宇宙船を知らないのか、またはその存在を信じていないためなのか、私たちにその存在の有無について疑問を抱かせています。

宇宙船は全て太陽エネルギーを利用して動きまわります。どんな武器にもどんな衝撃にも耐えられる、地球には存在しない大変頑丈な物質からできており、構造上各パーツに別れていないので、溶接や

鋌などで接合されてはいません。そして宇宙船はボタンによって操縦されます。

宇宙船には水平管が2本ついていて、その水平管は地球にはない物質でできています。その物質は軽くてアルミニウムに良く似ていますが、アルミニウムよりも光沢があり耐久性に優れています。これらの水平管は機体の前方から後方まで貫通しています。前方から太陽エネルギーを吸収し、後方から燃焼したエネルギーを排出しているので、宇宙船が通過するときには炎の尾が引いているように見えるのです。

宇宙船の形は全て円形というわけではありません。たとえば一度に何百人もの乗客を運搬することができる、巻きタバコの形をした長形モデルもあります。全てが同じ形や、同じ大きさをしているわけではないのです。これが他の惑星の交通手段です。

これら宇宙船の乗組員は、互いにテレパシーで連絡するので電話やテレビといった類のものは必要としません。なぜなら秀でたサイキック能力を持ち合わせているからです。

アメリカ人や他の列強国の人々のように知ったかぶりをしてロバのように騒いでいる地球人は、自分たちが唯一知識のある人間だと信じています。これらの無知な人間たちは、他の惑星に存在する本当に素晴らしい世界を知らずして一体どうするのでしょうか。

宇宙人の宇宙船は、この本に書いた教えを実行している人々を救うために飛び立つ準備が既にできています。彼らは誰を助けるべきかを知っているので、こちらから彼らを呼ぶ必要はありません。その時が来れば宇宙船によって救済されるでしょう。しかしその恩恵を被ることができる人数はごく僅かで、指で数えられるほどしかいません。なぜなら、誰もこの教えを実行したがらずに全てを頭で考え、終いには思考で理論を生み出します。つまりエゴがそれらの理論を構築します。必要なのは口先で理論ばかり唱えるのではなく、直ちに行うべき事を実践することです。

私がこの本を通じて述べていることは、この太陽系や銀河系に住んでいるのは私たち地球人だけではないということ、そして私たちはその中で最

も劣っている人種なのだということで、世界中の皆さんに一度で知ってもらうためなのです。というのも、列強国の人々は自らを博識だと信じこんでいるようですが、彼らが実際に行なっていることはそれとは全く逆のことだからです。彼ら自身や他の人たちに対して行なっている悪行は、私たち地球人がどんな性質の人種であるかをよく表しています。どうか私にまで下手な偽りごとを言わないでください。私はそれが嘘であることを知っているのです。

私がこの本を書いたのは、アメリカ人や科学者たちの嘘や脅迫に皆さんが騙されていることに気付いてもらいたかったからです。私は自分の意見をずっと主張し続けます。真実を言うことで命を奪われるのであれば、私はそれを受け入れる覚悟です。

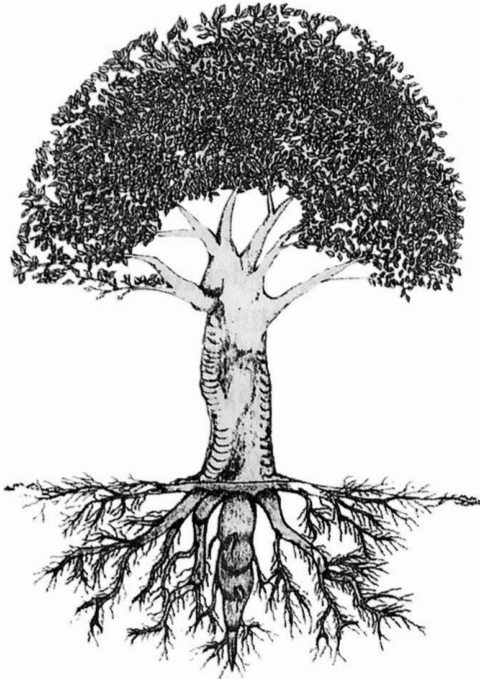
死について

この章には「死」という秘教的なタイトルがついています。なぜなら、自分のエゴを手放し始める人は、ほとんどが今置かれている状況から抜け出し始めるからです。従って、周囲がその人を悪事に誘い込もうと誘惑しても、その人は周囲に流されたりしないので、「つまらないやつだ、死んでいるのも同然だ」などと言われてしまいます。

私たち人間全員が自分の内面に、魂、Budhata、エッセンスなどの神性の一部を持っています。それらは色々な名前と呼ばれていますが、全て同じ神性の一部であり、今私が皆さんに教えしようとしているスピリチュアルワークを始めるために私たちをかりたて、私たちに力を与えてくれるものなのです。しかし、その魂やエッセンスは、私たちの悪意や精神的欠点などのエゴに閉じ込められているので、自由に表現することができません。なぜならそれはエゴが操っているからです。

神性は自身のエゴを手放すことで次第に成長して力を増し、よりはっきりと強く表に現れ、魂へと変化していきます。

例に挙げてみましょう。この木は主要な根の部分で支えられています。根は栄養を摂っておらず、



ただ、風やその木自身の重さで倒れたり転がったりしないように支えています。そしてそれ以外の細かい根は、土壌の表面に向かって根を広げ栄養を吸収しているのです。

私たち人間のエゴも同様です。木を支えている太い根は、色欲、復讐心、怒り、傲慢などの主要なエゴを象徴し、細かい根は、私たちが気づかないような些細な精神的欠点で、いずれも主要なエゴに属し、その主要なエゴに栄養を与えているのです。つまり私たちがたくさん持っている小さな欠点を栄養としてエゴは育つのです。

木の幹を支えているこの何千という細かい欠点に気付くには、自分自身の自己観察を始めなければなりません。来るべき大災難から救われたいと願う人は、小さい根を取り除き、木への栄養を絶たなければなりません。他人に対する悪い考え、嫌悪感、嫉妬心、野心、お金やつまらないものを盗んだり嘘を言うこと、傲慢に満ちた態度、貪欲などといったものは全てネガティブなことであり、それらを真剣に手放すよう努めるべきなのです。

私たちの内面には、他にもう1つ「聖なる母」という神性の一部があります。「聖なる母」の使命は、彼女の持っている槍でさまざまなエゴを崩壊することです。どんなに小さい欠点であっても、内なる「聖なる母」に「聖なる母よ、私からこのエゴを取り除いてください。そしてその槍でこのエゴを崩壊してください」と願いを乞うのです。そうすれば、「聖なる母」は私たちがエゴを手放せるよう助けてくれます。それが彼女の使命だからです。このようにして木はこれ以上成長せず、栄養不足となり、枯れていくでしょう。

ここで私が述べたことは、皆さんがどこへ行っても、仕事中でも、何をしても実行に移すためのものです。そこでは思考と感情と性行動には気をつけなければなりません。この3つは全てのエゴが表現される中心部分であり、その3つの内いずれか1つでもエゴが顔を出してきたら、直ちにそのエゴを手放すために「聖なる母」に助けを求めなくてははいけません。

私が皆さんにお教えしている「エゴの死」によって科学的純潔を手に入れることができ、全人類

を愛することを学ぶのです。自分のエゴを手放すためのスピリチュアルワークを実践しない人は決して純潔に辿り着くことはできず、また他人の愛情を感じることもできません。なぜなら自分自身を愛せないからです。

エゴの崩壊、幽体離脱こそが、人類を救う唯一の方法なのです。

幽体離脱

親愛なる読者の皆さんへ

アストラル界について話をするにあたり、ここで皆さんに質問します。遠い昔に亡くなった人の夢を見たことはありますか。その夢に出てくる場所も、他に登場する人たちも実際に皆さんは知らないのです。「昨夜こんな夢を見たよ」などと言っただけでごく普通の夢として捉えます。しかし誰も「自分の肉体はベッドで休んでいたはずなのに、なぜ知らない場所の夢を見たのだろう」と考えることはしません。

これはアストラル界、または五次元世界と呼ばれる、幽体が属する重量も距離もない次元です。幽体は肉体とまったく同じ外見をしていますが、それはエネルギー体で、思考と同等の速さで動くことができ、宇宙について知りたいこと全てを調査する能力を持っています。

五次元世界では、私たちは動いたり調査を行ったり、天使や聖母、高次元のマスターたちと会うことができます。彼らは本にも書かれていない知識を私たちに教えてくれますが、この教えは人間の知性を超えたところにあります。例えば、ある人がオカルティズム（神秘学）について興味を持ったとします。ところが五次元世界ではオカルティズムに関する知識を簡単に得ることができるので、もう神秘的なことではなくなるのです。

興味深いことは、幽体は無意識で眠ったまま肉体から抜け出すのではなく、意識のあるまま肉体から抜け出し、完全に自分の意志で動くことができるということです。親愛なる読者の皆さん、もしもアストラル界へ抜け出したいのであれば、私が実践したことのあるマントラをお教えしましょう。このマントラを用いれば必ず十分な結果が得られることでしょう。このマントラは、幽体が完全に意識のあるまま肉体から抜け出し、また肉体へと戻ることを可能にする魔法の呪文です。

横になって身体をリラックスさせ、この魔法の呪文を3回～5回ほど口頭で唱えます。その後、

心の中でこの呪文を何度も繰り返します。そしてつま先から頭のとっぺんまで身体全体に電気が通ったように感じると、皆さんの身体は力を失い、身体を動かしたくない感覚に襲われます。そのとき、細心の注意を払いながらゆっくりと起き上がって足で立ち、一度で浮き上がるように少しだけ飛び上がってみてください。浮きあがって幽体になっても、怖がったり、驚いたり、大げさに喜んだりしないでください。これは人間の誰もが行うことであり、何も危険なことではないのです。しかしながら多くの方は無意識のうちに肉体から抜け出して、自分の意思で行なっていないだけなのです。

私たちの内面には「聖なる神」が存在します。皆さんの幽体が空中に浮き上がった瞬間に、「父なる神よ、私をグノーシスの教会へと連れて行ってください」と唱えるか、どこか行ってみたい場所を唱えると、電光石火のごとく瞬時に皆さんをそこへ連れて行ってくれます。そしてそこで、師たちの教えを直接受けることができます。

このようにして、本にも書かれていない、大学でもどこでも教えてくれないような真の知識を獲得できるのです。ぜひこれを毎晩実践することをお勧めします。

そのマントラは「LA RAS」です。このマントラは音節の1つ1つを、長めに発音します。

Lllllaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa (ラ・・・・・)

Rrrrrrrrrrrraaaaaaaaaaaa* (ラ・・・・・)

Ssssssssssssssssss* (ス・・・・・)

もう一つのマントラは「FARAON」です
Faaaaaaaaaaaaaaaaaaaa (ファ・・・・・)

Rrrrrrrrrrrraaaaaaaaaaaa* (ラ・・・・・)

Oooooonnnnnnnnn (オ・・・・ン・・・)

次に、高次元で意識を目覚めさせるためのもう1つの秘訣を皆さんにお教えしましょう。

アストラル界では、家や人や自動車など、この世界で私たちを取り巻くものと全く同じものが存

* Raは巻き舌のように舌を口蓋につけて震わせて発音する。

* Sは歯の隙間から息を漏らすように発音する。

マントラの発音は下記サイトをご参照ください。

<https://hercolubus.tv/ja/>

在しています。そこで自分が今、物質界にいるのかアストラル界にいるのか、その違いを知りたいければ、人、家、今いる場所など、あなたの周りにあるもの全てをじっと見てください。そして違和感を感じながら自分自身にこう問いかけてみてください。「どうして私はこのようなものが見えるのだろうか。私はアストラル界にいるのだろうか、それとも物質界にいるのだろうか」と。そして浮いてみるような感覚で、少しだけ跳びあがってみてください。

1メートルも跳びあがる必要はありません。ほんの何センチほど浮き上がるだけで、今自分が肉体の状態なのか幽体の状態なのかかがわかります。浮き上がらないときは肉体で、浮き上がるときは幽体なのです。そこで、浮き上がったときすぐに内なる父に、グノーシスの教会、または自分が行ってみたい場所に連れて行ってくれるようお願いしなければなりません。

まずはこれを毎日行なってみてください。仕事であろうと、どこであろうと、1日にできるだ

け多く繰り返し実行すれば、必ずや結果が現れてくるでしょう。

私が本書に述べていることに確信を持てるのは、自分の幽体によって真実を徹底的に調べ上げたからです。幽体によって全てのことに気づくことが出来るのです。

最後に

私はこの教えを人類の皆さんに捧げます。なぜなら来るべき天変地異から本当に救われたいと思う人は、何千とある精神的欠点やエゴを直ちに手放す必要があるからです。それは、救済の時が来たときに、何も危険のない安全な場所へ移動されるための準備となります。そしてその後もエゴから解放されるまで教えを実践し続ける人が、人類の大災難から逃れられる人なのです。

神の審判では、この私たち人類のことを「失われた収穫物」と呼びますが、それは私たちを救う方法は何もないということです。来たる文明の滅亡に対して、神々が私たち人類のためにできることがもう無いからなのです。全てが計画されていることなので、スピリチュアルマスター達は驚くことはありません。

親愛なる読者の皆さん、私は皆さんが本気でスピリチュアルワークを実行する必要があることを

理解してもらうために、はっきりと言っているのです。なぜなら、このスピリチュアルワークを実行している者は危険から逃れられるからです。これは理論を説いたり討論したりするためのものではなく、私が本書に書いた教えを身を持って体験することであり、それ以外に方法はないのです。

私は皆さんを驚かしているわけではありません。何が私たち人類に起こるのかを皆さんに警告しているにすぎないのです。私が皆さんに語っていることは非常に重大なことであり、神を敬う人は、私たちが神から引き離す要因となっているエゴを手放すために努力を始めるのです。

秘教の分野についてはまだまだ話すことがたくさんありますが、私は皆さんの時間を奪うつもりはありません。ただ私がお教えしたように、皆さん一人一人がエゴを手放していただければと思います。なぜならそれが私たちの進むべき道であり、私は皆さんが誰一人としてその道を見失って欲しくないからです。

読者の皆さんへ

さらに詳しい情報に興味がある場合はこちらをご覧ください。

A. Prats Editor
Apartado de correos 449
09080 – Burgos (スペイン)

Eメール : hercolubus.spain@gmail.com

この本で私が断言している予言は、近い将来に起こります。なぜなら私は地球の最後をこの目で確認したからです。決して皆さんを怖がらせたいのではなく、皆さんに警告しているのです。それはこの哀れな人類のことを思うと、非常に耐え難いからです。ここで私が述べていることはもうすぐそこまで来ているので、空想ごとくにつけている時間はありません。